

## 「一滴の涙」ある夏の出来事

岡山県 赤磐市立桜が丘中学校 3年  
森永 翔太（もりなが しょうた）

家族旅行中の出来事。一軒の家が目飛び込んできた。その家は窓が割れ、建物はボロボロ。そして一番の衝撃は、「人殺し、出て行け、化け物」などの卑劣な言葉。塀に沢山のビラ。その時下を向いたおばあさんと若い女性が周りを見渡しビラを外し、逃げる様に家に入って行った。「何この家。何で？」と聞いた。「息子が人殺しをした。当たり前だ。家族も同様な罪を受けるべき」と運転手が答えた。疑問に思ったがそのまま旅館に行った。

温泉に入り僕は、こんな幸せな時はあのおばあさん達無いだろうなど、ふとそんなことを思い、あの二人の悲しい顔が脳裏をかすめた。

部屋に戻り皆に聞いてみた。「家族まで同じ罪を受けないと駄目？」反対に質問された。「翔太はどう思う？」僕の家ではまず僕自身の考えを述べて、それについて皆で話し合うのだ。すぐに返答出来なかった。すると祖父が「お前はもう十四歳。善悪は分かるはず。旅行に来てまで暗い話だがこれは勉強よりも大切な事。よく考えて答えてみろ」と言った。僕は五分～十分考え答えた。「犯罪者の人の家族があんな思いをするのは可哀想だと思う。犯罪者本人だけではなく、家族まで。あの卑劣なビラはひどい。窓も割るなんて」そう言い下を向いた。「そうだな。翔太の言う通りかもしれない。世の中はこういうものだ。十人居たら十人の考えがあるが、卑劣だな。」と祖父は言った。「親のしつけが悪いとか、兄弟姉妹が支えていないなどと運転手さんが言ったけど、僕は間違っていると思う」と言うと、「何が間違っていると思う？」と聞かれた。答えようとした時、食事の時間になった。そして祖父が「まだ何日か滞在する。よく考えなさい。」と言った。夕食を食べながらでも僕は心からノリノリになれなかった…あの白髪頭の痩せこけた青白いおばあさんの顔が頭の中から消えなかったからだ。「ああ僕はこんな幸せな時間をあじわっているのか…。」

次の日は雨が降っていた。そしてあの家の前をまた通った。濡れながら、また庭を見渡しているおばあさんがいた。その瞬間おばあさんが倒れた！僕は「車止めて！」と叫んだ。そして祖父と一緒におばあさんまで走った。「大丈夫？」と言うと、おばあさんが細い声で答えた。「大丈夫です。」

「はい、どうぞ」と言い持っていたハンカチを渡した。そうすると、「ありがとうございます。ありがとうございます。」と言ってくれた。雨ではなくその顔には一滴の涙が流れていた。その時、運転手が来て「行きましょう。相手にしたら

駄目です。」と言うので僕は濡れながら大声で叫んだ！「関係ない！大人なのに常識がない！おばあさんには関係ない。困っている人が居れば僕は助ける。あなたは間違っている。加害者の親だけど、今は被害者だ！」と言った。僕は年上の運転手さんに偉そうに言ってしまったので、恐る恐る祖父の顔を見た。そうすると祖父は僕の頭を大きな手で撫でてくれた。そして祖父は「運転はもういい。金はこれで足りるだろ。非情な人間の運転は信用ならん。孫の言う通り。ここから自分で行ける。わしら大人が次の世代を担ってくれる子どもの手本にならんとあかん。あんたは駄目だ！」と言った。運転手さんは下を向いて黙ってそこから立ち去った。

急いでおばあさんの方へ皆で行った。娘さんが出てきて僕たちの顔を見て驚いた様子だった。おばあさんが「事件以来優しさをもらったのは初めて。死んでも悔いはありません。」と言った。それを聞き祖父が「あなた達は何も悪くない。だが被害者の事そしてその被害者にも家族が居た事を決して忘れずに生きましよう。死んではいけない。息子のした事に目を背けず、しっかりと生きなさい。そして妹さん、あなたは全く関係ない。しかし兄が犯罪をすると全てを失うでしょう。しかし、人生は長い。下を向かずお天とさんを顔いっぱいにあびなさい。」と笑顔で言うと、二人共大声で泣き出し、そして少し微笑んだ。

旅館に戻った。「加害者の家族は最後には被害者になるのかもしれないな。翔太、今回の事を一生忘れず生きなさい。自分が悪い事をする大切な家族が辛いことになる。そして相手にも大切な家族がいる。今の世の中は人権がない。あると言いながら今回の様な場合はない。テレビなどの報道の仕方が悪い。犯罪は駄目だ。だから絶対に犯罪者にもなるな、そして差別をするな。分かったな。」と言われた。ぼくは、「絶対にしない！そして差別もしない！周りの人の言葉だけを信じるのではなくこの目で必ず確かめるよ。」と言うと家族皆が「翔太は大人より最高だね。子供の綺麗な心を大人になっても忘れなければこの世は最高になるはずだね。」と言ってくれた。祖父は僕の顔をもう一度撫でてくれた。

今あの家族はどうだろう…一滴の涙よりも「二人の間だけの笑顔を」取り戻して欲しい。